

市長コメント

PFAS 含有水の放出について

本日午前9時30分頃、沖縄県より、海兵隊太平洋基地はPFAS 廃水処理システム（PETS）で処理された水を公共の下水道を通して放出するとの連絡がありました。

普天間飛行場に所在するPFAS 含有水につきましては、これまでも日本政府並びに米軍に対し放出することなく、適切に処理するよう求めてきており、日米両政府において放出しない方向で検討が行われていると承知をしておりました。

しかしながら、本日、一方的に放出する旨の連絡があり、小野沖繩防衛局長並びに橋本外務省沖繩事務所特命全権大使に対しまして、本事案に対し抗議し、事実確認と詳細な情報提供を求めるとともに、今からでも放出を止める様要請いたしました。

米側のリリースによりますと、現在、普天間飛行場に保管されているPFAS 含有水を減らすにあたり、安全で効果的な方法であり、日本環境管理基準 JEGS に準拠するものであるとの事ですが、そもそも、公共下水道は、主として市街地における下水を排除し、又は処理するために地方公共団体が管理する施設であり、処理された水を直接流してよい施設ではないと認識をしております。

これまでも、令和2年4月10日に発生した泡消火剤の漏出事故をはじめ、市内の湧水において、高濃度のPFAS の値が検出されていることなどから、未だに、有機フッ素化合物に対する市民の不安が払拭されているとは言えず、そのような中、今回の放出がなされたことは、地元である宜野湾市民への配慮が著しくかけております。

また、本年7月19日に普天間飛行場内で行われた処理水のサンプリング調査の結果を注視していたところ、結果の公表もないまま、放出されたことについて、地元の市長といたしましては、大変遺憾であります。

つきましては、今回のPFAS 含有水の放出に強く抗議し、放出の中止を求めるとともに、今後、政府に対しまして、今回の放出に至った経緯や、放出に係る安全性についての見解を求めてまいります。

令和3年8月26日

宜野湾市長 松川 正則